

# NPOにおける社会教育人材の活躍について

## 1. NPOにおける社会教育人材の活動状況

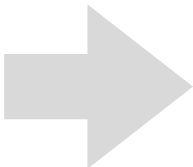
### 公的機関

- 公民館：「新境地」のための協働（課題解決、若年者の参画 等）
- 児童館：次世代育成のための協働（体験、学び、居場所 等）
- 学校：正規の教育の充実のための協働（学習支援、キャリア教育 等）

### 民間

- 環境教育：企業等との協働（親子向け、自然体験、SDGs学習 等）
- まちづくり：商店街・大学等との協働（親子向けアクティビティ 等）
- 地域福祉：社協・社福法人等との協働（居場所、人権学習、防災学習 等）

### 所 感

- 
- ①ユニークな体験や学びのニーズの高まりとともに、官民で「社会教育」のタッチポイントが増幅している。
  - ②力量あるNPOが、各所で活躍するようになっている。
  - ③NPO間で「社会教育」の認知度が向上している。（例：主事講習）

## 2. NPOにおける社会教育人材の活躍に向けた課題

### ①社会教育の知見の活用（≡ 資格・称号取得の気運醸成・動機づけ、ファンづくり）

「社教講習を受講することで、自分たちの強み／地域での  
立ち位置／これから担うべき役割を整理できた！」

「多様なつながりを得ることができ、現場の活動に還元できそう！」

### ②縦割りの越境

「自分たちのやっていることは全くもって社会教育なのに、  
当の関係者になかなか振り向いてもらえない・・・」

「公民館、自分たちとは全く別世界とっていた！」

### ③力量あるNPOと諸機関との接点づくり、活動の場づくり

「マッチングやアイデア交換が可能な、恒常的な環境づくりを。」